

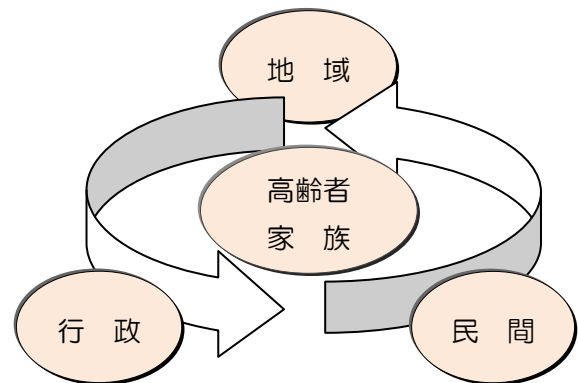
【第1回目（平成23年6月9日）】

■現状の奈井江町の取り組みや町民参加の確認

■行政サービスの確認

【施設・住居】

- ・介護保険施設～ 病院など3つの入所施設（130床）
- ・高齢者専用施設～ 生活福祉センターひだまり
- ・アパート建設助成～ 高齢者対応の場合10万円/戸 追加



【生活交通】

- ・町営バス～ 向ヶ丘線 ・福祉バス～ 温泉への定期運行、各種団体利用
- ・スクールバス～ 2台

【保健事業】

- ・高齢者の体力づくり教室ほか（運動フロア、ウォーキング、チェアビクス、各地区での運動教室、保健推進委員の養成）

【医療】

- ・町立病院（内科、整形外科、眼科、小児科。病床数96）
- ・町内診療所 医科3、歯科3

【地域包括支援センター】

- ・介護や介護予防に関する相談、介護サービスプランの作成、認知症サポーターの養成ほか）

【在宅介護サービス】（町立病院や健寿苑、やすらぎの家で実施）

- ・訪問看護 ・デイサービス ・ショートステイ ・その他（住宅改修、福祉用具貸与）

【第2回目（平成23年7月22日）】

山田眞知子さんを講師に迎えての講演と意見交換

○一人暮らしの高齢者対策

- ・地域で、高齢者を見守るということがありますか→

自治体の職員のほか、民間委託や高齢者のボランティアで行っています。

- ・介護サービスを受けたくない人には、どのようにしたらいいでしょうか→
フィンランドでは、中心となるセンターがあって、そこに様々なクラブがあり、色々な人が通っています。そういう場所を提供するのが、自治体の役目になっています。通いやすいようにバスとか、誰かが誰かを誘うというようなネットワークができるといいですね。

○福祉利用券（バウチャー制度）

- ・介護の度合いによって、1,000 とか 2,000 ユーロとかの違いがある

○税制度

- ・掃除など家内労働を頼んで支払った賃金の60%分が、所得税から控除される

《委員の皆さんからの主なご意見（第1～2回）》

【行政サービス】

○生活交通

- ・福祉バス「ふれあい号」は、乗車している人が少ないので、病院や買い物に回れるようにしたらいいのでは。
- ・福祉バス利用券を配布しては
- ・今は車を運転できるが今後、運転をやめるとどうなるか心配
- ・タクシー乗り合わせやバスで一緒に行き帰りするシステムを将来、考えていかなければならない

【第2回 配布資料】

- ・要介護認定調査の人数（介護に関する相談と対応）
- ・高齢者の困りごとベスト10

○健康づくり

- ・入浴券を貰っても行かない人がいるので、無駄かなっと思ったりしています
- ・筋カトレーニングは効果があるので、もう少しPRして参加者を増やせば、医療費の抑制にも繋がる
- ・高齢者の一人暮らしの食事は、お腹はいっぱいになっても栄養のバランスが偏ります。

○高齢者の生活支援

- ・保健師が定期的に独居老人宅を訪問するとい

《次回以降の議論ですが…》

【民間サービス】

○買い物

- ・自宅で注文し、自宅まで宅配するシステムがあればいい
- ・移動販売車の検討（農協で検討したいとの発言）

【地域コミュニティ】

○地域の繋がり

- ・震災のテレビを見て、横と横との助け合いが重要だと感じた
- ・近所の声かけが必要
- ・ご近所の力が一番とは思いますが、近所だけではうまくいかない
- ・気軽に出かけられて誰かに会え、サロンのようにお茶を飲みながら話ができる場所があるといい

○老人クラブ

クラブ加入者の皆さんが、どういう要望を持っているのか意見を聞いては

○社会福祉協議会

- ・シルバー人材センターに頼んだ草取りやり方など、もう少し利用者の意向を反映するようにしてもらいたい

【その他】

○老朽化住宅（空き屋）対策

- ・個人の問題なのですが、古くて傾いている非常に危険な住宅をただ見ているわけにはいかないと思う